

第180回「元気に百歳」クラブ 俳句サロン「道草」を開催

「今夜は雨になる可能性が高いので、雨具を持って出かけた方が良い」との気象情報。7月5日（金）、第180回目の俳句サロン「道草」は、「新橋ばる一」3階の303号室で、この日に開催されました。3階での「道草」は珍しく、辻柴楽さんが「ばる一には3階があったんですか」と言われていたのが印象的でした。本日のご出席は、芦川創風さん、井上蒼樹さん、奥田和感さん、君塚明峰さん、高瀬荻女さん、辻柴楽さん、原晶如さん、本間傘吉さん、森田多佳さんと芦尾白然に、本日は新入会の金田絢子（俳号は月草）さんが、初めて出席され、全員で11名の参加です。中島懂岳さんが急遽欠席され、欠席投句でのご参加は、板倉歌多音さん、上田枯葉さん、木村栄女さん、住田幸佳さん、船戸清助さんの5名でした。

住田先生は、冒頭に新入会の月草さんへのガイダンスとして、伝統俳句のこと、「有季定型」のこと、五、七、五の語の並び方の説明をされました。これは月草さんのお勉強というだけでなく、参加されている皆さんにもおさらいになりました。そして住田先生は「今日は優しい季語にします」と仰って、下述の三つの席題を提示されました。皆さんが真剣さの中で詠まれ、選句された天賞句と最多得票賞句（☆印）は、次の通りです。

席題1. 「キャベツ」

◎『キャベツ畑浅間に到る黒き土』	荻女	天1
◎『自慢らしキャベツ畑の土の色』	多佳	天1
◎『玄関にどかりとキャベツ貰ひけり』	白然	☆6

席題2. 「夏の蝶」又は「夏蝶」

◎『ふいと来し夏蝶庭におちつかず』	白然	天2
◎『ゆつくりと今を生きるや夏の蝶』	明峰	天2
◎『破れ庭を舞台に踊る夏の蝶』	傘吉	天1 ☆5

席題3. 当季雑詠の自由題句

◎『肩越しに苔の庭見る夏座敷』	晶如	天1
◎『掃除機のコードすとんと梅雨晴れ間』	荻女	天1
◎『襖絵の滝轟ける古刹かな』	栄女（投句）	天1
◎『たち葵天に向かつて微笑めり』	歌多音（投句）	天1
◎『被災地へ思ひ馳せるや梅雨しとど』	傘吉	天1
◎『夏山の深きに入りて空近し』	清助（投句）	☆5

（道人の一句）

酔キャベツやスリム効果の一位とは 住田道人

席題1. では、荻女さんの句「キャベツ畑浅間に到る黒き土」が、天賞一つと高得票を獲得しました。下五の「黒き土」の「黒」が、いかにも肥えた土であり、活きのよいキャベツを育てていることを示しています。しかも中七の「浅間に到る」で、キャベツ畑の広大さと豊かさを誇示しています。多佳さんの句「自慢らしキャベツ畑の土の色」も。天賞一つを獲得しました。ここでは土の色は具体的に何色とは表示していませんが、黒々とした自慢したくなる肥えた土地であったのでしょうか。白然の句「玄関にどかりとキャベツ貰ひけり」が、最多得票賞（☆印）をいただきました。詠み手の嬉しい気持ちに共感をいただけたのでしょうか。選外でしたが、晶如さんの句「高原の靄る畑やキャベツ抱く」は、下五の動詞「キャベツ抱く」が、生き活きとしていて、魅力的な句になりました。

席題2. では、明峰さんの句「ゆつくりと今を生きるや夏の蝶」が、天賞二つを獲得されました。己が命の短さを知るのや知らぬのやら、夏の蝶が今、この時を「悠然と」というか、超然と遊んでいる姿、明峰さんならではの一句と思われまふ。白然の句「ふいと来し夏蝶庭におちつかず」も、天賞二つをいただきました。これまた夏蝶の姿を写生した句ですが、上五は「ふいと来て」の方が、夏蝶が活きるかも知れません。傘吉さんの句「破れ庭を舞台に踊る夏の蝶」が、天賞一つと最多得票賞（☆印）を獲得されました。蝶にとってはどんな庭であれ、まさしく庭こそが舞台で、ここで精一杯、自分を表現することになるのです。皆さんの共感を得、最多得票に輝きました。

席題3. の自由題句では、皆さんの選句が分散して、5句の天賞句が生まれました。先ずは晶如さんの句「肩越しに苔の庭見る夏座敷」が、天賞一つを獲得しました。時を経た苔の庭は、日本文化の象徴の一つと言える景です。格調の高い夏座敷が浮かびます。上五の「肩越しに」が、何か艶やかな想像を働かせるのではないのでしょうか。荻女さんの句「掃除機のコードすとんと梅雨晴れ間」も天賞一つを獲得しました。この句は、中七の「コードすとんと」が、鬱陶しい梅雨どきの掃除にあって、せめて「晴れた日には、かくあれ」という願いが、選者の気持ちを揺すぶったのでしょうか。

荻女さんの句「襖絵の滝轟ける古刹かな」（投句）も、天賞一つを獲得しました。この句は、古刹の重厚さが印象付けられる句ですが、中七の「滝轟ける」が、上五にかかるか、下五にかかるかで、「滝」が季語として有効かどうかという問題を孕んでいるようです。襖絵に描かれた滝では季語にはなり得ないのでは？という問題があります。もう一句、歌多音さんの投句「たち葵天に向かって微笑めり」が、天賞一つを獲得しました。背筋がピンと伸びる「たち葵」の花、中七の「天に向かって」が活きました。

傘吉さんの句「被災地へ思ひ馳せるや梅雨しとど」も天賞一つを獲得しました。7月初旬というこの時期、1年前の中国地区の集中豪雨が思い出されます。合掌。最多得票賞（☆印）は、清助さんの投句「夏山の深きに入りて空近し」に輝きました。中七、下五の「深きに入りて空近し」、この実感が、選者の心に届きました。選外でしたが、明峰さんの句「二人なら一本でいい梅雨の傘」が、皆さんの大拍手を浴びていました。これまた艶やかな句です。選外句をもう一句、蒼樹さんの句「雨誘ひ艶をいや増す七変化」ですが、中七の「艶をいや増す」を「えんをいやます」と読ませ、下五に誘う季語の「七変化」を置きました。思い込みの強い、言わば「凝り過ぎ」の句は、今一つ票が伸びません。思い込みの激しいときは、要注意ですね。勉強になります。

今日の二次会は、先月と同じく洋酒居酒屋ローズ&クラウン新橋店に、お世話になりました。今日は月草さんのデビューでの日、句会のご挨拶でも、「元気に百歳クラブに入会して、仲間が出来たことが大きな喜びでした。今度は『道草』でも、仲間を増やしたい」と、仰っていましたが、是非是非、この雰囲気打ち解けていただきたいものです。今日も賑やかに俳句の話、元気に百歳クラブの別のサロン活動でのご活躍の話、良い時間が過ぎていきました。雨の降らないうちに引き上げました。来月は8月5日です。この日は、句会のあとは、「元気に百歳」クラブの全体のイベント「夕涼み会」が、二次会の場となります。皆さん、元気で集まりましょう。

白然記